

台湾資源再生協会で事務局長を務める、陳偉聖・台湾国立成功大学教授の写真が、2日に名古屋市市内で開催されたレアメタル資源再生技術研究会で「台湾における太陽電池製造廃棄物からのガリウムとインジウムの回収」をテーマに講演を行った。

陳教授は台湾の国立大学である成功大学で教鞭を振るう一方、台湾資源再生協会の事務局長を務めるなど、台湾における資源リサイクルの権威の一人として活躍している。研究分野は生産冶金、

台湾資源再生協・陳事務局長 レアメタル資源再生技術研究会講演



廃棄物処理、資源リサイクルなど。

講演で陳教授は、太陽電池は近年、化石燃料に代わるエネルギー源として注目を集めており、その材料にはCIGS(銅-インジウム-ガリウム-セレンウム)が含まれることを指摘。その中でもインジウムは、将来的に生産工程におけるスク

ラップ発生の増加が予測されており「リサイクルの重要性が増している」と強調した。インジウムの最大の生産国は中国で世界の60%以上を占める。最大の消費国は日本で、世界の70%以上のインジウムを消費していると現状を解説。

台湾での輸出入量は、年々拡大傾向にあり2003年にはわずか335キログラムであった輸入量が10年には5714キログラムまで増加している。その一方、輸出量も拡大し、03年の190キログラムから10年には9066キログラムまで増加

レアメタル、リサイクル重要に

ていると資料を示した。ガリウムも台湾の輸入量は、03年時点で1万8386キログラムであったが、10年には5万7089キログラムまで拡大している。輸出についても03年の1880キログラムから10年には16万3518キログラムまで増加したと語った。

生産工程内で発生するインジウムやガリウムのスクラップに関する具体的なリサイクル方法として、イオン交換法や溶媒抽出法を紹介。その研究成果を報告し、リサイクルの有用性をアピールした。

【名古屋】